

<工芸品の部>

(有形文化財を重要文化財に 1件)

こんどうみつぎょうほうぐ
金銅密教法具

ごこしよ
五鈷杵 一口

しゅじごこれい
種子五鈷鈴 二口

うち一口に貞応三年、うち一口に仁治二年の刻銘がある

【所有者】宗教法人法音寺（山形県米沢市御廟1-5-32）

【法量】（五鈷杵）長17.4cm （五鈷鈴）高21.7cm 高22.3cm

本作は、五鈷杵と五鈷鈴とを組み合わせたものである。上杉氏が越後より米沢に移転した際に、現在当寺に秘仏として安置される善光寺如来像とともにもたらされた。江戸時代には米沢城内本丸の謙信を祀った御堂^{みどう}に奉安されていた。明治時代、謙信の位牌を上杉家廟所に移転する際、廟所に隣接する現在の地に同じく遷座された当寺に移管された。

五鈷杵は、やや古様かつ特異な造形を示しながらも、鎌倉時代初期の作風を示している。また、五鈷鈴二口は、胎藏界四仏を表した莊嚴性の高い仕様で、先行する貞応年の鈴に、仁治年の鈴を追作するかたちで製作、善光寺に施入された後、一具とされたものと思われる。杵、鈴とともにいずれも鑄上りが良好で、重厚かつ峻険^{いあが}で巧緻な作風を湛えた鎌倉時代密教法具の優品である。特に、五鈷鈴二口は、ともに年紀等の銘文があり、基準作としても貴重である。

(鎌倉時代)



五鈷杵



種子五鈷鈴

